主催：立命館大学大学院先端総合学術研究科 院生プロジェクト「マルチモーダル人類学先端研究会」

アーティストのフィールドワーク

#01ホー・ルイ・アン

ホー・ルイ・アン
Ho Rui An
の作品
Solar:A Meltdown
を見ます

講師：川上幸之介
（倉敷芸術科学大学准教授）

1979年山梨県生まれ。ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズMAファインアート修了。KAGアートディレクター（https://gallerykag.jp/）。専門は現代アート、ポピュラー音楽、キューレーション。著書に『パンクの系譜学』、共著に『思想としてのアナキズム』（以文社）。キュレーションにPunk!The Revolution of Everyday Life 展、Bedtime for Democracy 展ほか。

コメンテーター：小川さやか
（立命館大学先端総合学術研究科教授）

ホー・ルイ・アン（Ho Rui An）について

シンガポールを拠点に活動するアーティスト、ホー・ルイ・アンは、映像、インスタレーション、パフォーマンスを用いてイメージと権力の関係の変化を探り、グローバリズムや統治といった文脈で、それがどのように作られ、循環し、消滅するかを考察してきました。本作『Solar:A Meltdown』は、ルイ・アンがアムステルダム・熱帯博物館を訪れたときに出会った、文化人類学者 チャールズ・ロ・ルーのマネキンの汗だくの背中から始まるレクチャーパフォーマンスです。
ルイ・アンはヨーロッパの植民地計画を支える「無意識的太陽」を、映画やアーカイブ資料の中で表象される抑圧者、被抑圧者の間の権力関係を通じて検証していきます。帝国の「背後」にある容赦のない太陽の日差しは、作中において「手」や「眩い白」に変換され「帝国的でグローバルな家政空間」を形成します。大航海時代の幕開けと共にはじまった、西洋による暴力と収奪に彩られた植民地主義は、今日においても大衆文化の中で、文脈を変えながら他者としての非西洋を生産し続けています。本作において語られる「歴史がなく、物語しかない」とされる「汗」や、グローバリゼーションの見えない「白人女性のスカートの襞」、循環し続ける労働の連鎖を象徴する「プンカワラ」は、新植民地主義のもつ近代化のシステムをも明るみにしていきます。

立命館大学
衣笠キャンパス
充光館 地下 シアタールーム
〒603-8346
京都市北区等持院北町56-1

2025年1月12日（日）
15:00 -18:00
（14:30より開場）

問い合わせ：加藤このみ（研究会代表、gr0635vs@ed.ritsumei.ac.jp）